



THE MAUREEN AND MIKE MANSFIELD FOUNDATION

ニュースリリース

2021年6月4日

## 米国連邦政府職員 10 名をマンスフィールドフェロー第 26 期生に選抜

(ワシントン D.C.) モーリーン・アンド・マイク・マンスフィールド財団(以下、マンスフィールド財団)は、2022 年-2023 年度のマンスフィールドフェローシップ・プログラム第 26 期生となる 10 名の米国連邦政府職員を発表します。今回選抜された 10 名のフェローは 2022 年に訪日し 1 年間、日本語を学び、日本政府機関等で研修します。

本プログラムは米国政府内で日本専門家を養成するため、1994 年米国議会にて創設されました。今年 4 月 16 日、ワシントン DC でのジョセフ・バイデン米国大統領と菅義偉首相による日米首脳会談で、本プログラムの再開が決まり、日米共同記者会見で、バイデン大統領は「友情と繋がりという個人的絆は、日米同盟を今後何十年にもわたり強く活気に満ちたものにするでしょう。」(中略)「(マンスフィールド大使からは)私の上院議員時代に、説明し尽くせない程ご支援を頂きました。彼のレガシーが両国の緊密かつ末永く続くパートナーシップを支え、今なお尊重され続けていることを誇りに思います。」と述べました。

第 26 期フェローは 2022 年 7 月 1 日に日本に派遣され、過去、本プログラムに 30 近い米国省庁、独立連邦行政機関及び米国議会から参加した 169 名の同窓生の輪に加わることになります。

なお本プログラムは米国政府より助成され、米国国務省教育文化局の支援の下、マンスフィールド財団が事業運営を行っています。

第 26 期生として選抜された 10 名のマンスフィールドフェローは以下の通りです。

|                 |                                      |
|-----------------|--------------------------------------|
| メリッサ・アバテ        | 米国司法省 連邦捜査局 情報分析官                    |
| ジェームス・カイル・武雄・有田 | 米国空軍 大尉、第 480 航空団 航空戦略イニシアチブ・グループ副主任 |
| ティン・メイ・チャウ      | 米国国土安全保障省 連邦緊急事態管理庁 予算部長             |
| キャサリン・クック       | 米国航空宇宙局 深宇宙探査ゲートウェイ・プロジェクト室 運用分析官    |
| リリー・デュワン        | 米国食品医薬品局 医療機器・放射線保健センター 化学者          |
| シャノン L. グランビル   | 米陸軍戦史センター 歴史資料課 上級編集者、編集チーム長         |
| ローレン・マタカス       | 米国環境保護庁 放射線・屋内大気部 広報専門家              |

グレイス Y. パク  
ジェレミー・ポッター  
コリン・ティーマー

米国空軍 特別捜査局 特別捜査官  
米国内務省 海洋エネルギー管理局 太平洋地域環境研究主任  
米国議会 立法補佐官

新しいフェローは、1年間の研修中、石川県で7週間の日本語集中プログラムに参加し、その後10カ月間、主として日本政府機関に配属されます。日本の省庁や国会議員事務所、非政府機関等で同僚と机を並べながら、日本政府がどのように機能し政策を決定するか、また日米関係における政治・経済・戦略的側面を深く理解することに努めます。本プログラムを通じて得た知識及び日本政府、ビジネス界、専門家、学术界など様々なネットワークにより、フェローは所属する連邦政府の職務に戻った後、日本とアジアに関連したプログラムや政策に関わる業務を促進していきます。

マンسفールド財団のフランク・ジャヌージ理事長兼最高経営責任者は、以下のように述べています。

「この度、選抜された第26期フェローの発表ができることを大変喜ばしく思います。と同時に、彼らを来年日本に派遣することを楽しみにしています。世界的なコロナウイルス感染拡大により、フェローの派遣は昨年より停止を余儀なくされていましたが、日米首脳による本プログラム再開の発表を受け大変嬉しく思います。貿易、安全保障、防衛、公衆衛生等の専門家であるフェローは、故マンسفールド大使が推進した二国間の相互理解のために貢献していきます。帰国後は、本研修で得た経験を通じ両政府間の協力関係を強化し、所属する米国連邦政府機関に日米パートナーシップへの新たな理解をもたらすことを期待しています。」

マンسفールド財団のベンジャミン・セルフ副理事長兼マイク・マンسفールド・フェローシップ・プログラムディレクターも、以下のように述べています。

「故マンسفールド大使は、日米関係を世界で最も重要な比類なき二国間関係であると考えました。第26期フェローが過去に様々な分野で活躍してきた同窓フェローのコミュニティに加わり、日米関係全般にわたる相互利益と管理の領域で貢献することを期待しています。」

マンسفールド財団は、米国歳入法 501(c)3 条によって認可された米国・アジアにおける理解と協力を促進する民間の非営利団体です。当財団は、モンタナ州選出の上院議員、多数党院内総務、駐日米国大使として、その生涯を通じて、20世紀の重要な国内外の問題で重要な役割を果たしたマイク・マンسفールド大使(1903~2001年)を称え、1983年に設立されました。

マイク・マンسفールド大使とモーリーン夫人が米国とアジア各国との関係について抱いた価値観、理想、ビジョンは、財団の交流、政策対話、研究および教育プログラムに受け継がれ、米国およびアジアのリーダー間のネットワークを生み出し、公共政策に影響を与える根本的な問題を探求し、米国のアジアの国々や人々に対する意識向上につながっています。当財団の事務所はワシントン DC、東京、モンタナ州ミズーラにあります。